よみがえるあの惨事

―新潟地震から20年―

防災はみんなの力で

昭和三十九年六月十六日午後一時二分に発生した「新潟地震」は、多くの市民を不安と恐怖に陥れました。新潟地震から二十年、地震災害の恐ろしさに対する感覚も薄らいできています。市では、関係機関と市民の協力を得て、地震災害を想定した総合防災訓練を十五日に実施します。新潟地震の教訓に学び、防災意識を高め、災害に備えましょう。

裂け目が広がり車の通れない万代橋を、はだしで家路へ急ぐ人たち

地震など大災害が発生した場合、市をはじめ、消防や警察などの防災機関は、全力をあげて救助活動を行いますが、被害を最小限にいとめることは極めて困難になります。

広範囲で、しかも同時に多発する災害にすぐ対応することは、各自治会、町内会や事業所が、お互いに協力し合い、初期消火や避難誘導、救出救護などの防災活動を行うことが大切です。

日ごろから防災活動について話し合い、防災体制の強化を図って、必要な資器材などを準備しておきましょう。

日ごろから準備と心がけ

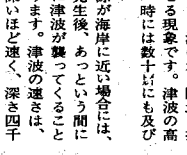
各家庭では、いつ災害が発生してもあわてずに行動できるよう、日ごろの準備と心がけが大切です。

◇防災訓練には積極的に参加し、消火器の使い方や応急手当の方法など、防災活動に必要な技術を身につけておきましょう。

◇家庭でできるだけ話し合い、適切な行動が取れるように、そして、災害時の避難場所や連絡方法について、あらかじめ相談しておきましょう。

◇火を使用する器具、石油など燃えやすい危険物、倒れやすい家具など、火災の発生や拡大の原因となるものは、ふだんから点検・整備しておきましょう。

◇災害時の非常持出し品（貴重品、懐中電灯、トランジスタラジオ、非常用食料、医薬品など）を準備しておきましょう。


非常持出し品の準備を

津波災害に気をつけて

津波は、海域で起きた地震によって、海の水が陸地に押し寄せる現象です。津波の高さは、時には数十㍍にも及びます。

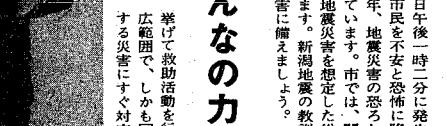
震源が海岸に近い場合には、地震発生後、あっという間に沿岸に津波が襲ってくることがあります。津波の速さは、海が深いほど速く、深さ四千㍍の海では毎秒二百㍍、深さ五百㍍では毎秒七十㍍で伝わります。

また、沖合いでは小さな波でも、沿岸に打ち寄せるときは、異常に高くなることがあります。

強い地震を感じたときは、直ちに海岸から退避して下さい。津波は繰り返し襲ってくるので、気をゆるめず、正しい情報をラジオ、テレビ、広報車などで得るようにしましょう。

[redacted]

市交通防災課（☎28―一〇〇〇）、または市消防局（☎23―三一九一）へ



地域で災害に備えましょう

あっ堤防から水が…

―阿賀野川で水防訓練―

「阿賀野川大橋の下流右岸約四百㍍の堤防にろう水を発見。対策には〝月の輪〟工法が適当」――の想定で、先月二十七日、阿賀野川右岸の河川敷（西名目所）で水防訓練が行われました。

これは、阿賀野川水防協議会（新潟市など六市町村で構成）が毎年実施しているもので、今年は、松浜、島見、濁川、寺尾、内野、中野小屋の六消防分団の団員や市職員ら約二百人が参加しました。

午前九時半、資材を積んだトラックがろう水現場に到着。消防団員らがたちまちのうちに、土のうを半円に積み上げ、〝月の輪〟を三ヵ所に設置。この後、堤防破損の想定で〝シート張り〟工法も実施されました。

なお、六年前の六・二六水害では、実際に阿賀野川や信濃川などで、土のう積みや月の輪工法が行われました。

ろう水を防ぐ〝月の輪工〟の訓練風景

ぐらっときたら あなた〝自身〟で

▣身の安全と火の始末

ぐらっときても、あわてて外へ飛び出さないで下さい。丈夫な机やテーブルの下へ身を隠し、揺れがおさまったらすぐ火の始末をしましょう。

急斜面の山やがけ地のところでは、がけ崩れや山津波の危険があります。すばやく避難しましょう。

▣避難は徒歩で、持ち物は最小限に

火災や津波などの危険が迫ってきたら、持ち物は避難袋など最小限に、自動車やバイクを使わず、必ず歩いて避難しましょう。

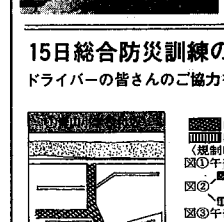
※自動車の運転中に地震が起きたら……徐々に速度を落とし、道路の左側に車を寄せて様子を見ましょう。避難しなければならない時は、エンジンを止め、車のキーをそのままにして警察官などの指示に従って下さい。

▣デマに迷わされない

地震にデマはつきもの。ラジオや警察、消防、市役所などの公共の情報をよく聞きましょう。

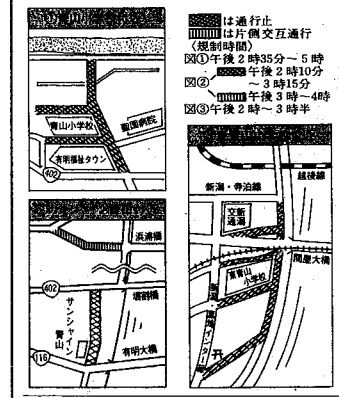
［避難場所の確認］

市では、市立の小・中・高校を避難場所に指定しています＝写真。万一に備え、最寄りの避難場所を確認しておきましょう。



15日総合防災訓練の交通規制

ドライバーの皆さんのご協力をお願いします



糖尿病教室（3回1コース）

会場　鳥屋野地区保健センター（先着20人、電話で会場へ）

月日	時間	内容	持参品
6・19	午後1時～4時	糖尿病について	糖尿病手帳、筆記用具、お食事日記、お持ち合わせの方は食品交換表
6・25	〃	食品交換表とその実際	
7・2	午前10時～午後零時半	（試食代200円必要）食品の計量法、調理実習	

保健婦による健康相談

老人保健法「健康手帳」をお持ちの人は持参下さい。

地区	月日	会場	時間
赤塚	6・11	（医師による相談もあり）赤塚連絡所	午前10時～正午 午後1時～3時
石山		（医師による相談もあり）★石山地区保健センター	午後1時半～3時
入舟	6・12	入舟地区保健センター	〃
坂井輪		★　小針公民館	午前10時～正午 午後1時～3時
内野		（医師による相談もあり）★上新町公民館	〃
山の下	6・13	善見町集会所	午後1時半～3時半
曽野木		緑木会館	午前10時～正午
鳥屋野	6・14	鳥屋野自治会館	午後1時半～3時
中野小屋		★　中野小屋連絡所	午前10時～正午 午後1時～3時
両川	6・15	★　嘉瀬集会所	〃
濁川・南浜		北地区保健センター	〃

★印は栄養士による相談もあります。

▣保健婦・医師による老人出張相談

月日	会場	時間	対象
6・11	老人憩いの家「寿楽園」	午後1時半～3時	60歳以上
6・14	〃　「石山荘」	午後1時半～3時半	

成人病食事相談

月日	会場	時間	持参品
6・12	小針公民館	午前10時～午後3時	・みそ汁用テスト紙（希望する人は汁の中に使用する食塩を少量）・筆記用具（食べるのみ）
6・13	上新町公民館	〃	
6・14	中野小屋連絡所	〃	
6・15	西保健所	午前9時～11時	
6・22	小新公民館	午前10時～午後3時	

子どもの食事講習会

時間　午前10時～正午
対象　1～3歳児をお持ちのお母さん、または保育者
申し込み　電話で各会場へ

月日	会場	テーマ	持参品
6・15	西保健所	魚の食べやすい調理	エプロン、三角きん、母子健康手帳
6・19	東保健所	むし歯とおやつ	

いきいき健康うす味料理講習会

日時　6月15日午前10時～午後零時半
会場　中野小屋連絡所
内容　がんと食生活、料理実習
持参品　エプロン、三角きん、経費100円

いきいき減量教室（6回1コース）

対象　19歳以上で肥満度20%以上の女性30人
申し込み　6月16日までに電話で会場へ

月日	時間	会場	内容
6・27	午後1時～3時半	東保健所（調理実習材料費として400円必要）	・医師「肥満がおよぼす害」・体育館指導員「暮らしの中の運動」・減量のための食事づくり・生活習慣の見直し　ほか
7・4			
7・11	午前10時～午後2時半		
10・23	午後1時～3時半		
10・30			
11・6	午前10時～午後2時半		

離乳食講習会

日時　6月21日午後1時半～3時半
会場　鳥屋野地区保健センター
対象　生後4カ月に達した赤ちゃんをお持ちのお母さん　**持参品**　母子健康手帳
申し込み　電話で会場へ

育児相談

持参品　母子健康手帳、筆記用具

地区	月日	会場	時間
曽野木	6・13	緑木会館（3月生まれの乳児が対象）	午後1時～3時
山の下	6・14	中地区保健センター（1月生まれの乳児が対象）	午後1時半～3時

乳歯むし歯予防教室

日時　6月15日午後1時～1時20分受け付け、3時終了予定
会場　坂井輪地区保健センター
対象　6カ月～1歳未満児30人（先着順）
内容　歯科医師の話と検診、歯みがき指導ほか
持参品　母子健康手帳、おぶいひも、使用中の子供用歯ブラシ
申し込み　電話で西保健所へ

子供を水から守る運動

赤十字救助員養成講習会

日時　6月30日～7月3日午前9時～午後5時
会場　新潟アイスリンクプール（7月1日まで）、日赤県支部（7月2、3日）
申し込み　6月20日（必着）までに往復はがきに希望コース、氏名、性別、生年月日、住所、電話番号、勤務先（所在地、電話番号）日赤水上安全法救助員の資格の有無を明記し日赤県支部安全係（〒951 関屋下川原町1―3―12☎31―3121）へ

コース	参加資格	定員	持参品
Aコース	18歳以上の男女でクロール平泳ぎ100m以上、1つの泳法で500m以上、横泳ぎで25m以上、立泳ぎで1分以上、潜行15m以上の泳力がある	30人	参加費2,400円、水泳用具、ロープ（直径5、6ミリで5～10m）1本、筆記用具、トレーニングウエア、防寒衣、昼食
Bコース	上記の条件を満たすことのできない人	20人	